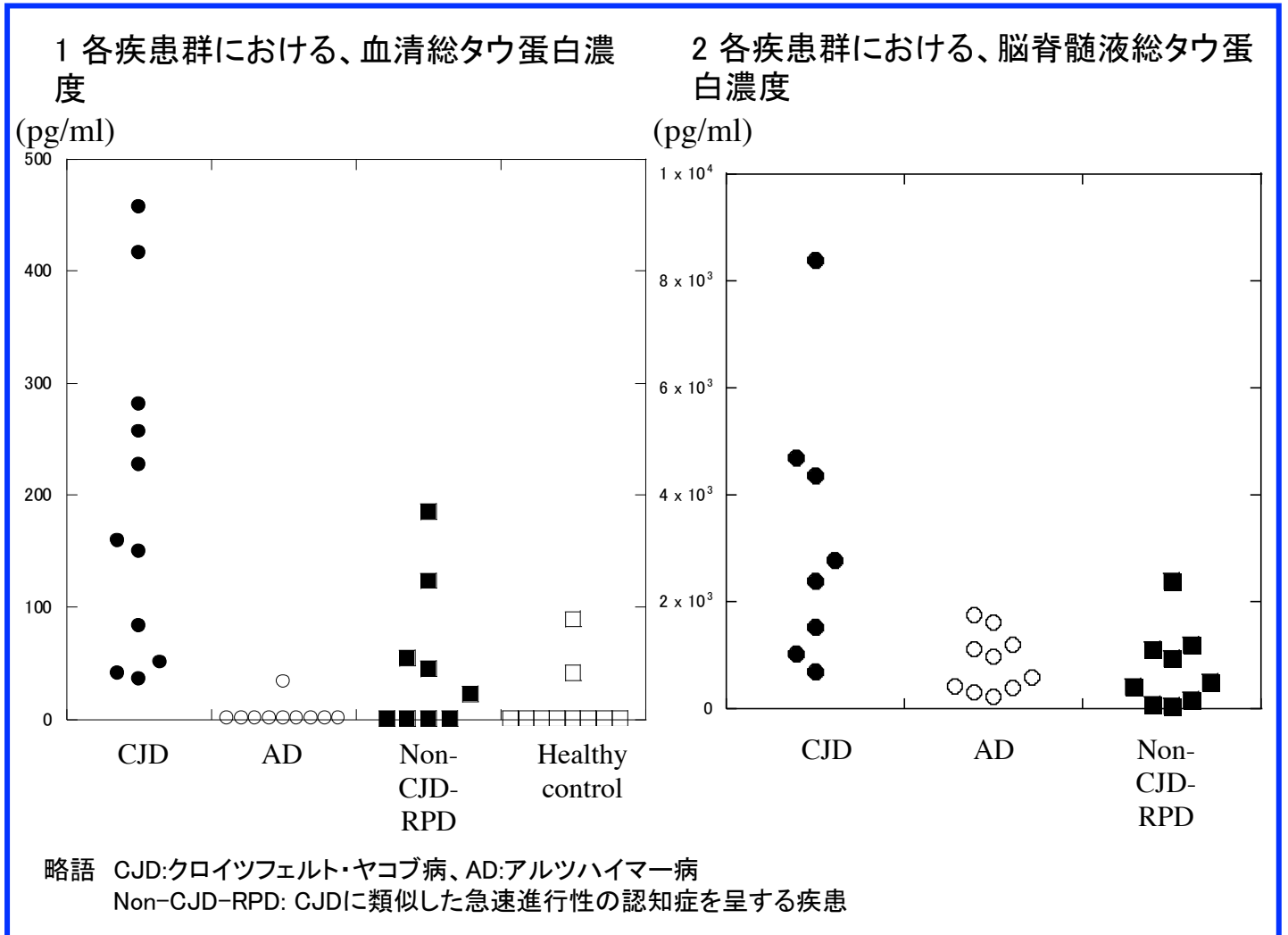


血清タウ蛋白はクロイツフェルト・ヤコブ病の簡便な診断マーカーである

研究分担者: 金沢大学大学院医学系研究科 脳老化・神経病態学(神経内科) 山田正仁



解説

1. クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の血清および脳脊髄液中の総タウ蛋白濃度を測定し、アルツハイマー病(AD)およびCJDに類似した急速進行性の認知症(RPD)を呈する疾患(non-CJD-RPD)と比較検討を行った。
2. CJDの血清および脳脊髄液中の総タウ蛋白濃度はAD、non-CJD-RPDに比較して高値となり、血清総タウ蛋白はCJDとAD、non-CJD-RPDの鑑別に有用な非侵襲的かつ簡便なマーカーである可能性がある。